

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第65号

令和6年
8月発行

発行者
広尾町中高一貫教育推進委員会

北海道広尾高等学校 校長 柴山 真純

今年度も広尾町中高一貫教育連絡協議会会長を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本協議会の活動としては、5月の中高合同部会に始まり、事務局会議（年7回）と推進委員会（年3回程度）、年2回の連絡協議会、各分掌の連携による中高合同清掃や中高生徒会交流、各教科の連携によるSCC（中高一貫校相互乗り入れ授業）、部活動交流等が行われています。また、高校生活について中学生に説明する「中高語り場」や高校3年生がどのように進路実現を果たしたのかを話す「中高一貫進路講話」、高校2年生が自ら体験したインターンシップの活動について中学生に発表する「インターンシップ発表会」、「授業参観」、「特別支援研修会」等、様々な活動をとおして中学生と高校生、中学校教員と高校教員のつながりが保たれています。SCCにおいても、高校生が中学生を指導する場面や、高校教員が中学生に授業をしたり、中学校教員が高校生に授業をしたり、英語検定や漢字検定等を合同で行う等の活動が行われています。



平成18年度（2006年度）からスタートした「広尾町連携型中高一貫教育」も今年で19年目を迎えました。「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」を理念に掲げ、多くの町の方々と中高の教職員の協力により、これまで歩んできました。最初の「中高一貫研究集録（平成17年度版）」の巻頭言には、「中高一貫教育の実践の柱は、『基礎・基本の確実な定着』です。（中略）そのためには、組織的で効果的な取組が求められます。基礎・基本の定着は、小学校（幼稚園・保育所）からの一貫性や積み重ねがあってはじめて成果が上がります。」とあります。この理念の下、試行錯誤しながら行ってきました様々な取組を礎に、さらに実効性のある取組を検討・実施していきたいと考えております。

中高一貫教育の様々な取組をとおして、広尾の子どもたちが義務教育を経て広尾高校へ入学し、自分の進路希望実現を果たして、地域の未来の担い手となってほしいと願っています。そのために、高校としては、小規模校だからこそその利点を活かし、生徒の「個に応じた資質・能力の伸長」と「多様な進路希望実現」等の一人一人を大切にすきめ細かい指導をさらに充実させ、併せて「地域理解」も深めて参ります。今後も、中学生の保護者が「広尾高校で我が子を学ばせたい」、中学生が「広尾高校に通いたい」と思えるような地域に根ざした魅力的な学校づくりを念頭に置きながら、中学校との信頼関係の上に立った教育実績をあげていきたいと考えております。中高一貫教育に際して、引き続き、広尾町の皆様のより一層のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

広尾町中高一貫教育合同部会議開催のご報告

5月2日（木）に広尾高等学校多目的室において、
広尾町中高一貫教育合同部会議を開催いたしました。

（１）会議の経過

開会挨拶として広尾町中高一貫推進委員会委員長の
柴山真純広尾高等学校長、菅原康博教育長にお話を頂
いた後、中高一貫教育の目指す方向性などについて全
体会議で確認をしました。



（２）中高教科部会のようにと実践テーマ

今年度の教科部会は、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、保健体育科、家庭科、
情報・商業科、養護の9部会に分かれて開かれました。

①『国語科部会』

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化を親しむための授業の在り方



②『社会科【地歴・公民】部会』

- 1 中高の連携活動を活かした効果的な学習指導の工夫
…基礎・基本の定着を目指した中高相互乗り入れ授業の実践
- 2 中高6年間の学びもれのない、きめ細やかな連携教育を目指した教育課程の研究
…中高基礎学力テストの分析等による、中高6年間を通して重点的に指導すべき学習領域の検討

③『数学科部会』

基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した
数学的活動の工夫およびチーム・ティー
チングの充実



④『理科部会』

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間の見通しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

⑤『英語科部会』

SCC や英検、国際交流活動を通じて生徒が主体的に
英語を活用しようとする姿勢を育む



⑥『保健体育科部会』

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさを深く味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める。
- 2 運動における協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲や態度を育てる。

⑦『家庭科部会』

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実



⑧『情報・商業科部会』

近年の高度情報化により、ICT教育を進めるべく、6年間を通して系統的な学習内容により、基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践

⑨『養護部会』

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
- 2 生徒・地域の実態をふまえた保健指導・カウンセリングの充実

(3) 各分掌部会のようにすと実践テーマ

①『教育課程・学習指導部会』

基礎学力の向上と主体的な学習態度の育成を目指す
～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

②『特別活動・生徒指導部会』

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、協力性を学ぶ。
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践を行う。

③『進路指導・総学部会』

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

④『広報啓発部会』

中高一貫教育だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

⑤『特別支援部会』

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

子どもたちの自立の土台を育む役割を担って

広尾町立広尾中学校 校長 齊藤 芳秀

今年度4月から、広尾中学校の校長として着任いたしました齊藤芳秀でございます。前任の2年間は本別町の勇足地区にある勇足中学校で、本別町市街地にある本別中学校とともに、北海道本別高等学校と連携した中高の取組にも携わらせていただいていた。生徒たちがその取組を通じて高校への安心感・信頼感をつかみ、地元の高校への進路決定をした例を目の当たりにしており、中高連携の意義は大いにあると感じています。新たな町に迎えていただき、これまでとは異なる新たな施策での中高連携の醍醐味を、関わる皆さんと一体感をもって味わっていかれたらと思っています。



各校種においては、目の前にいる子どもたちに身につけるべき資質・能力について、職員とともに活発に議論されていることと思います。広尾町の中高一貫教育に携わる一員として広尾高校さんのスクール・ミッションを拝見したところ、重点教育目標に「コミュニケーション力を高める」～それぞれの段階に応じたコミュニケーション力を身につける～とあります。その第1段階として、「明るく挨拶し、返事など自分の意志を明確に伝えることができる」とうたわれています。

実は、私が広尾中学校に着任当初から毎日心洗われる思いをしていることが、生徒たちからの「挨拶」です。校長室前の廊下を通る生徒たちが、私に届く声で挨拶をしていきます。さらに、「正しい挨拶の仕方」へと主体的にバージョンアップする上級生が育ち、先生方が生徒指導にその事象を取りあげる仕掛けを組んでくださったことも奏功し、下級生にも浸透してきました。職員室に入室する生徒の挨拶に対して職員がていねいにリアクションされることから、一方通行ではない「コミュニケーション」の礎が正しく育まれています。

この例から、中高一貫教育として取り組める素材（ヒント）は日常生活の中にもたくさんあるのではないかと、日々周囲を見渡しています。「広尾の子どもは広尾で育てる」を目指して長い年月を重ね培ってこられた中高一貫教育の理念を踏まえ、どんな子どもに育てるのか、そのために取り巻く大人はどんな矢を放つのか、幼保小中高を貫く一本の柱をイメージ・共有できれば、校種間連携もスムーズに運ぶことが期待できます。子どもたちの自立の土台を育む場に身を置く一員として、今後も伸びしろいっぱいの広尾っ子を応援します。保護者・地域・関係諸機関の皆様の温かなご支援をよろしくお願いいたします。

高校の取組みにつきましては、本紙のほかに、下記ホームページでもご紹介しております。広尾町のページでは、本紙のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご訪問ください。



広尾高等学校公式 HP



広尾町公式 HP